

平成 年 月 日
午 時 分 受領

平成19年12月13日

福島町議会議長 溝部幸基様

福島町議会議員 1番 佐藤卓也 ㊟

一般質問通告書

第4回定例会において、次の件について質問したいので、会議規則第61条第2項の規定により通告します。

質問事項	質問の要旨	質問の相手
移住計画・空き家対策について	人口が減少している福島町を元気にするには、町外から人を呼び込むことも必要だと思います。団塊の世代は全国で約700万人います。福島町から都会に出ていった人も数多くいると思います。その人たちを含め団塊の世代を呼び込むことも必要ではないでしょうか。2005年から北海道では期間限定で北海道に住んでもらう事業をしています。他町でも土地を無償提供するなど積極的に推進しております。しかし、福島町は道庁の移住計画事業に参加していません。参加・登録しない理由が広い土地がない、空き家の管理が大変であるということですが、受け入れる体制を整えば、町内に散在する空き家を活用できるし、雇用も生みます。観光との相乗効果にもなります。本州企業とのつながりも期待できます。何よりも町民のためになります。町が元気になるこういった移住計画・空き家対策に対しどのような考えをお持ちなのか町長の所信をお伺いいたします。	町長

注) 1 質問の要旨は、簡潔明瞭に記載すること。なお、記載外については、質問できません。

2 質問の相手は、町長、行政委員会の長又は監査委員とする。

質問事項	質問の要旨	質問の相手
<p>子と親・親と親のふれあいについて</p>	<p>「福島町幼児教育のあり方策定会議」が今年10月に策定した「福島町における幼児教育のあり方について」の「はじめに」の項目で、幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期である。また、近年、子供同士の触れ合いが希薄になり、若い親たちの中には子育てについて相談できる家族や友人が近くにおらず、孤独感を深めている状況が問題化されていると書かれています。また、「教育内容の充実」の項目では、「幼児期にふさわしい遊びや生活を充実させ、バランスのとれた心と体の育成が望まれる」「保護者同士が気軽に集うことができる場を設定し、子育てについて話し合う場を充実させる」と書いています。</p> <p>平成17年3月の「福島町次世代育成支援行動計画-未来に輝く子どもたちを協働で育むまち」（平成16年2月1日～2月20日調査実施）のアンケートには、「子供が土日に活動できる遊ぶ場(61.6%)」「放課後などに集まって、子供同士で自主活動などができる場(54.5%)」が欲しい。子育てに関して悩みや不安感を感じる人が49%。こういったアンケートをとっています。しかし、町民からこういう要望が以前から数多く出されているにもかかわらず、子供の遊び場、子と親・親と親が集う場は福島町にはありません。少子化の影響で年々減少しているとはいえ、幼児・児童数は400人を超えています。こういう場を早急につくるべきと考えますが、町長及び教育長の所信をお伺いします。</p>	<p>町長 教育長</p>

質問事項	質問の要旨	質問の相手
<p>全国学力テスト等について</p>	<p>文部科学省は43年ぶりに実施した全国学力調査（全国学力テスト）の結果を公表しました。北海道の小学生は全国46位、中学生は44位でした。福島町教育委員会にも調査結果が送られてきていると思いますが、学力低下が叫ばれる中その結果はどうだったのか、データはどのように活用されるのか、お聞かせ願いたい。</p> <p>また、先日回覧板で回った福中だより第13号を拝見しました。このような取り組みは高く評価したいと思います。その記事の中で、1日の学習時間が0分～30分以内の生徒が半数。学習時間の少なさが問題と書いてあります。また、深夜0時以降に就寝する生徒も2割になっています。その理由がインターネット、メール、テレビ、ゲームです。朝食についても福島町の中学生の欠食率は9.1%で北海道の調査よりも6.8%高いそうです。これは、学校だけの問題ではなく各家庭、町全体の課題でもあると思います。福島町教育委員会ではこういった結果に対しどうお考えなのかお尋ねいたします。</p>	<p>教育長</p>